

# 1 素材需給の動向

## (1) 素材の需要

平成25年の素材の需要量は2,602万9千 $m^3$ で、前年に比べて137万3千 $m^3$  (5.6%)増加した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,727万1千 $m^3$ 、合板用は418万1千 $m^3$ 、木材チップ用は457万7千 $m^3$ で、前年に比べてそれぞれ102万4千 $m^3$  (6.3%)、34万4千 $m^3$  (9.0%)、5千 $m^3$  (0.1%)増加した。

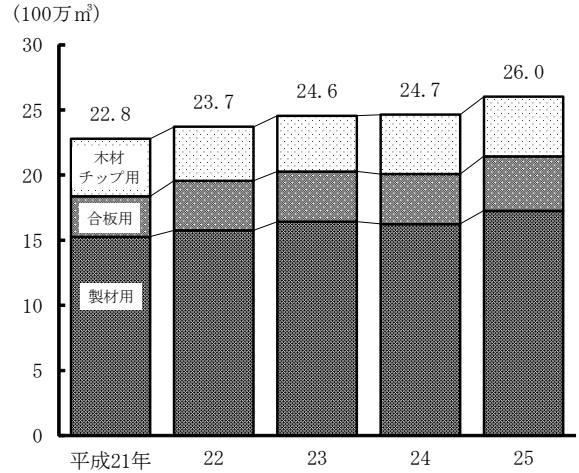
この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が66.4%、合板用が16.1%、木材チップ用が17.6%となった。(表1、図1)

表1 需要部門別素材需要量

単位：千 $m^3$				
年次	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成25年	26,029	17,271	4,181	4,577
対前年比 (%)	105.6	106.3	109.0	100.1
構成比 (%)	100.0	66.4	16.1	17.6

注：構成比 (%) は、四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある (以下の表において同じ)。

図1 素材需要量の推移



(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量		2) 製紙パルプ生産量	
	千戸	千戸	千t	千t	千t	千t
平成25年	980	550	26,241	8,766		
対前年比 (%)	111.0	113.0	101.1	101.4		

資料：1) 国土交通省『建築着工統計』  
2) 経済産業省『生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編』

## (2) 素材の供給

素材の供給量は、国産材が1,964万6千 $m^3$ で、前年に比べて116万7千 $m^3$  (6.3%)増加した。

また、外材は638万3千 $m^3$ で、前年に比べて20万6千 $m^3$  (3.3%)増加した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は75.5%となり、前年を0.6ポイント上回った。(表2、図2)

図2 材種別素材供給量の推移

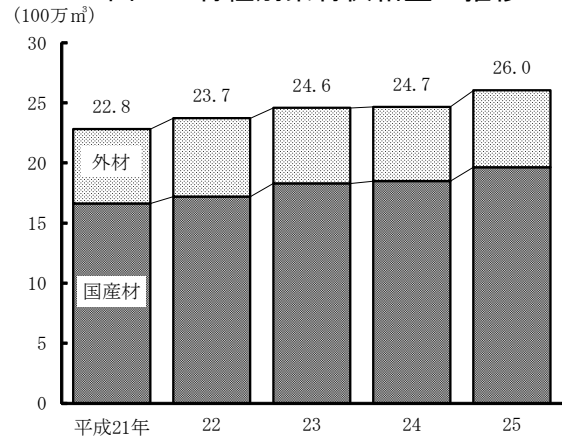


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区分	計	単位：千 $m^3$										
		国産材				外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューズ・ランド材	その他	
平成25年												
計	26,029	19,646	17,246	2,400	6,383	288	213	4,796	458	661	180	
製材用	17,271	12,058	11,932	126	5,213	83	8	3,923	391	639	177	
合板用	4,181	3,016	3,006	10	1,165	204	204	871	x	x	3	
木材チップ用	4,577	4,572	2,308	2,264	5	1	1	2	x	x	-	
対前年比 (%)												
計	105.6	106.3	107.4	99.3	103.3	83.0	82.6	109.7	97.9	82.3	96.3	
製材用	106.3	106.5	106.6	100.8	105.8	92.2	100.0	111.8	104.0	82.8	98.3	
合板用	109.0	115.9	115.9	111.1	94.3	81.3	83.6	101.9	x	x	x	
木材チップ用	100.1	100.4	101.5	99.2	31.3	16.7	16.7	22.2	x	x	x	
構成比 (%)												
計	100.0	75.5	66.3	9.2	24.5	1.1	0.8	18.4	1.8	2.5	0.7	
製材用	100.0	69.8	69.1	0.7	30.2	0.5	0.0	22.7	2.3	3.7	1.0	
合板用	100.0	72.1	71.9	0.2	27.9	4.9	4.9	20.8	x	x	x	
木材チップ用	100.0	99.9	50.4	49.5	0.1	0.0	0.0	0.0	x	x	x	

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,724万6千 $m^3$ で、全ての需要部門で生産量が増加したことから、前年に比べて118万4千 $m^3$ （7.4%）増加した。

これを樹種別にみると、あかまつ・くろまつは、前年に比べて3万7千 $m^3$ （5.6%）減少したが、素材供給量の6割弱を占めるすぎは、前年に比べて94万6千 $m^3$ （9.5%）、ひのき、からまつ及びえぞまつ・とどまつは、前年に比べてそれぞれ13万5千 $m^3$ （6.2%）、1万8千 $m^3$ （0.8%）、15万9千 $m^3$ （18.6%）増加した。

また、広葉樹は240万 $m^3$ で、木材チップ用の生産量が減少したことから、前年に比べて1万7千 $m^3$ （0.7%）減少した。（表2及び3、図3）

図3 樹種別素材生産量の推移

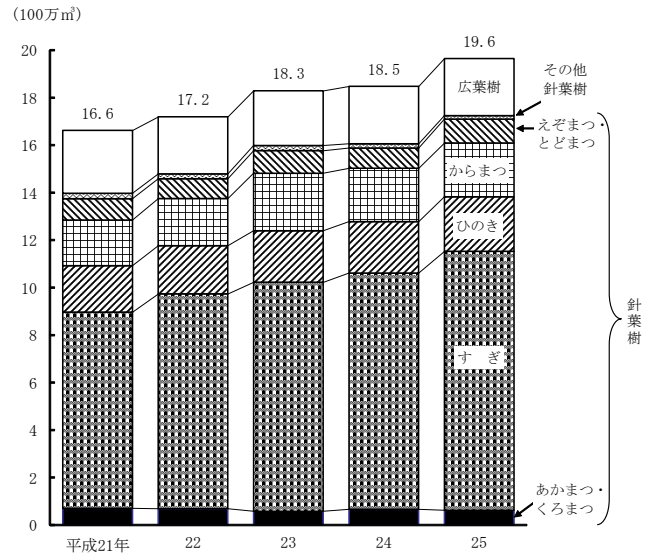


表3 需要部門別、樹種別素材生産量

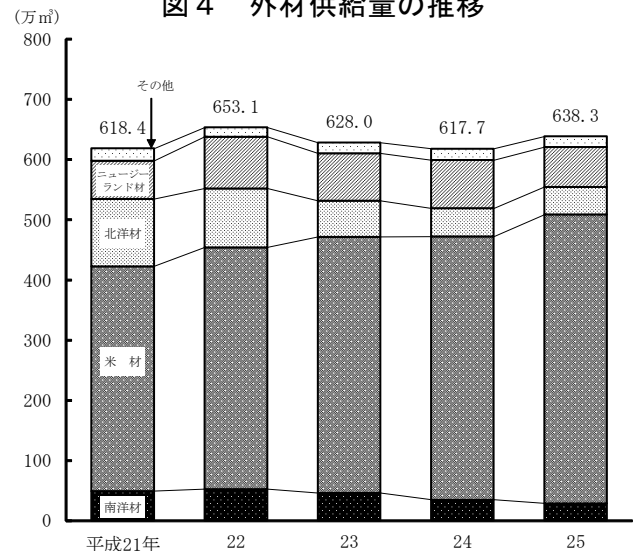
単位：千 $m^3$

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成25年									
計	19,646	17,246	624	10,902	2,300	2,263	1,012	145	2,400
製材用	12,058	11,932	137	7,825	1,953	1,154	805	58	126
合板用	3,016	3,006	142	1,922	104	733	91	14	10
木材チップ用	4,572	2,308	345	1,155	243	376	116	73	2,264
対前年比(%)									
計	106.3	107.4	94.4	109.5	106.2	100.8	118.6	79.7	99.3
製材用	106.5	106.6	85.1	107.3	106.0	96.9	123.7	105.5	100.8
合板用	115.9	115.9	103.6	120.7	119.5	106.2	128.2	93.3	111.1
木材チップ用	100.4	101.5	95.0	108.1	103.4	103.3	88.5	65.2	99.2
構成比(%)									
計	100.0	87.8	3.2	55.5	11.7	11.5	5.2	0.7	12.2
製材用	100.0	99.0	1.1	64.9	16.2	9.6	6.7	0.5	1.0
合板用	100.0	99.7	4.7	63.7	3.4	24.3	3.0	0.5	0.3
木材チップ用	100.0	50.5	7.5	25.3	5.3	8.2	2.5	1.6	49.5

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、外材の8割弱を占める米材は479万6千 $m^3$ で、前年に比べ42万4千 $m^3$ （9.7%）増加したものの、ニュージーランド材は66万1千 $m^3$ 、北洋材は45万8千 $m^3$ 、南洋材は28万8千 $m^3$ で、前年に比べてそれぞれ14万2千 $m^3$ （17.7%）、1万 $m^3$ （2.1%）、5万9千 $m^3$ （17.0%）減少した。（表2、図4）

図4 外材供給量の推移



## 2 木材産業の動向

### (1) 製材業

#### ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成25年12月31日現在の製材工場数は5,690工場で、前年に比べて237工場(4.0%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、7.5~22.5kW未満及び150.0~300.0kW未満の階層を除いて減少しており、特に37.5~75.0kW未満の階層において、前年に比べて132工場(7.0%)と減少幅が大きい。

また、1工場当たりの出力数は117.6kWで、前年に比べて3.7kW(3.2%)増加した。(表4)

表4 製材工場数、製材用動力の出力数  
(平成25年12月31日現在)

出力階層	単位	平成25年	対前年比	構成比
工場数計	工場	5,690	96.0	100.0
7.5~22.5kW未満	"	716	100.0	12.6
22.5~37.5	"	1,140	95.4	20.0
37.5~75.0	"	1,759	93.0	30.9
75.0~150.0	"	1,039	96.0	18.3
150.0~300.0	"	604	100.5	10.6
300.0kW以上	"	432	97.7	7.6
総出力数	kW	669,114.8	99.1	-
1工場当たり出力数	"	117.6	103.2	-

#### イ 従業員数

平成25年12月31日現在で操業している工場の従業員数は3万1,124人で、前年に比べて514人(1.6%)減少した。

また、1工場当たりの従業員数は5.5人で、前年に比べて0.1人(1.9%)増加した。(表5)

表5 従業員数規模別製材工場数及び従業員数(12月操業)

年次	従業員数規模別製材工場数(12月操業)							従業員数 (12月31日現在)	1工場 当たり 従業員数
	計	4人以下	5~9	10~19	20~29	30~49	50人以上		
平成25年	5,671	3,788	1,143	520	119	74	27	31,124	5.5
対前年比(%)	96.0	96.2	93.3	96.3	106.3	104.2	103.8	98.4	101.9
構成比(%)	100.0	66.8	20.2	9.2	2.1	1.3	0.5	-	-

#### ウ 製材用素材消費量

平成25年の製材用素材消費量は1,732万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べて119万6千m<sup>3</sup>(7.4%)増加した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、75.0~150.0kW以上の階層において前年に比べて増加しており、特に消費量の7割弱を占める300.0kW以上の階層において、前年に比べて1,113m<sup>3</sup>(10.9%)と増加幅が大きい。

なお、1工場当たりの素材消費量は3,044m<sup>3</sup>で、前年に比べて323m<sup>3</sup>(11.9%)増加した。(表6、図5)

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合(平成25年)

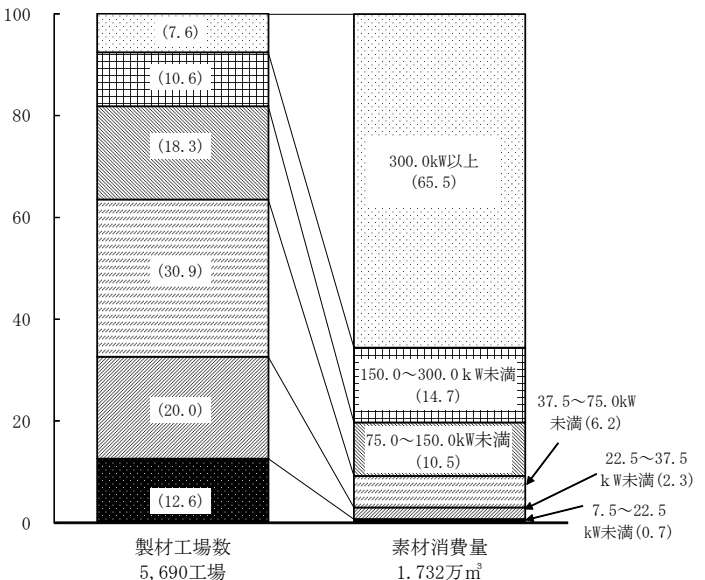


表6 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	単位	平成25年	対前年比	構成比
計	千m <sup>3</sup>	17,321	107.4	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	126	92.0	0.7
22.5～37.5	〃	398	98.3	2.3
37.5～75.0	〃	1,078	98.9	6.2
75.0～150.0	〃	1,826	100.1	10.5
150.0～300.0	〃	2,542	104.6	14.7
300.0kW以上	〃	11,351	110.9	65.5
1工場当たり消費量	m <sup>3</sup>	3,044	111.9	-

エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成25年の製材用素材入荷量は1,727万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べて102万4千m<sup>3</sup> (6.3%)増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,205万8千m<sup>3</sup>で、前年に比べて73万7千m<sup>3</sup> (6.5%)増加し、外材の入荷量は521万3千m<sup>3</sup>で、前年に比べて28万7千m<sup>3</sup> (5.8%)増加した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は69.8%で、前年 (69.7%) を0.1ポイント上回った。(表7、図6)

図6 製材用素材の入荷量の推移

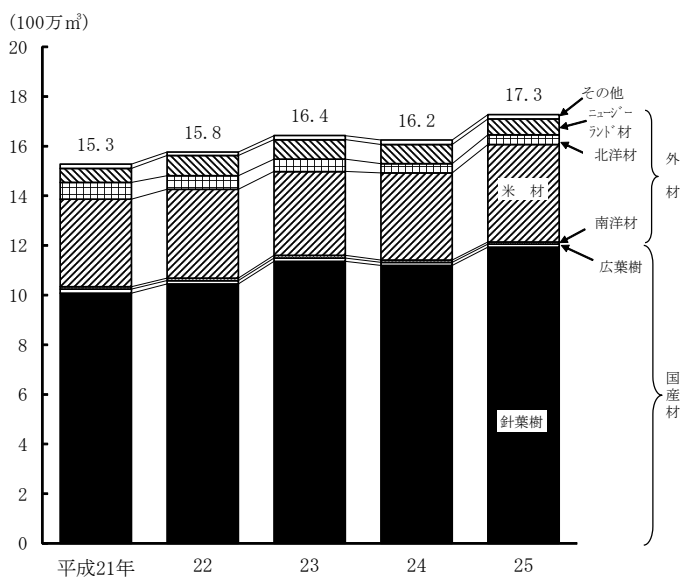


表7 材種別製材用素材の入荷量

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成25年	17,271	12,058	11,932	126	5,213	83	8	3,923	391	639	177
対前年比 (%)	106.3	106.5	106.6	100.8	105.8	92.2	100.0	111.8	104.0	82.8	98.3
構成比 (%)	100.0	69.8	69.1	0.7	30.2	0.5	0.0	22.7	2.3	3.7	1.0

単位: 千m<sup>3</sup>

(イ) 平成25年に素材の入荷があった製材工場は5,659工場で、前年に比べて224工場（3.8%）減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは4,147工場、国産材と外材は1,163工場、外材のみは349工場で、前年に比べてそれぞれ17工場（0.4%）、163工場（12.3%）、44工場（11.2%）減少した。

入荷量でみると、国産材のみは1,097万5千 $m^3$ 、国産材と外材は319万 $m^3$ で、前年に比べてそれぞれ72万4千 $m^3$ （7.1%）、32万2千 $m^3$ （11.2%）増加したが、外材のみは310万6千 $m^3$ で、前年に比べて2万2千 $m^3$ （0.7%）減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、「300.0kW以上」の工場が入荷量の全体の約6割を占めている。（表8）

表8 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成25年								
計	5,659	17,271	4,147	10,975	1,163	3,190	349	3,106
7.5～22.5kW未満	711	125	611	103	88	17	12	5
22.5～37.5	1,130	390	933	310	162	70	35	11
37.5～75.0	1,751	1,073	1,180	723	465	277	106	73
75.0～150.0	1,032	1,825	709	1,310	235	342	88	173
150.0～300.0	603	2,558	393	1,834	146	434	64	290
300.0kW以上	432	11,300	321	6,695	67	2,050	44	2,554
対前年比（%）								
計	96.2	106.3	99.6	107.1	87.7	111.2	88.8	99.3
7.5～22.5kW未満	99.9	91.9	104.1	92.0	93.6	94.4	38.7	83.3
22.5～37.5	95.1	94.9	102.1	109.9	74.0	63.1	63.6	61.1
37.5～75.0	93.6	95.9	94.2	94.3	89.3	95.8	109.3	115.9
75.0～150.0	95.9	99.6	98.9	102.7	87.4	94.7	97.8	88.3
150.0～300.0	101.3	104.4	103.7	105.2	96.7	99.5	98.5	106.6
300.0kW以上	98.0	109.7	102.2	110.3	93.1	124.0	80.0	99.3

注：工場数は、平成25年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は1,010万 $m^3$ で、前年に比べて79万8千 $m^3$ （8.6%）増加した。

これを用途別にみると、木箱仕組板・こん包用材及び家具・建具用材は、前年に比べてそれぞれ2万6千 $m^3$ （2.3%）、3千 $m^3$ （5.0%）減少したものの、出荷量の8割強を占める建築用材及び土木建設用材は、前年に比べてそれぞれ78万1千 $m^3$ （10.4%）、5万2千 $m^3$ （12.3%）増加した。

また、人工乾燥材出荷量は298万4千 $m^3$ で、前年に比べて24万 $m^3$ （8.7%）増加し、製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は29.5%で、前年並みだった。（表9、図7）

図7 用途別製材品出荷量の推移

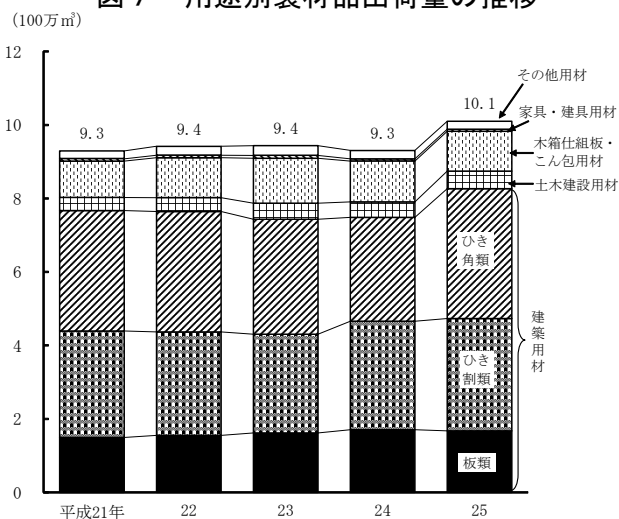


表9 用途別製材品出荷量

単位：千 $m^3$

年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成25年	10,100	2,984	8,265	1,674	3,055	3,536	476	1,084	57	218
対前年比（%）	108.6	108.7	110.4	98.2	103.4	125.2	112.3	97.7	95.0	97.3
構成比（%）	100.0	29.5	81.8	16.6	30.2	35.0	4.7	10.7	0.6	2.2

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成25年12月31日現在の合単板工場数は195工場で、前年に比べて2工場(1.0%)減少した。これを製造種類別にみると、特殊合板のみ製造している工場は、前年に比べて3工場(2.1%)増加したが、その他の工場は前年並み又は前年に比べて減少した。合単板工場の従業者数は7,126人で、前年に比べて185人(2.5%)減少した。なお、1工場当たりの従業者数は36.5人で、前年に比べて0.6人(1.6%)減少した。(表10)

表10 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数(平成25年12月31日現在)

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり従業者数
	計		9人以下	10~49	50~99	100~199	200~299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
	工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人
計	195	99.0	96	62	13	17	5	2	7,126	97.5	36.5
単板のみ	14	87.5	6	7	-	1	-	-	347	93.0	24.8
普通合板のみ	31	91.2	2	7	6	13	2	1	1)3,603	1)95.8	1)109.2
普通合板と特殊合板	2	100.0	-	-	1	1	-	-	...	...	...
特殊合板のみ	148	102.1	88	48	6	2	3	1	3,176	99.9	21.5

注: 1)は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成25年の単板製造用素材の入荷量は418万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べて34万4千m<sup>3</sup>(9.0%)増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は301万6千m<sup>3</sup>で、前年に比べて41万4千m<sup>3</sup>(15.9%)増加したが、外材は116万5千m<sup>3</sup>で、前年に比べて7万m<sup>3</sup>(5.7%)減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は72.1%で、前年(67.8%)を4.3ポイント上回った。

(表11、図8)

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

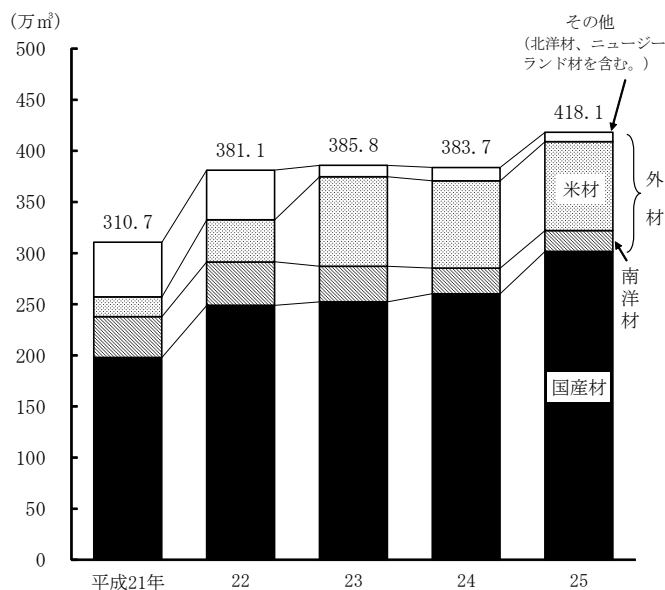


表11 材種別単板製造用素材の入荷量

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成25年	4,181	3,016	3,006	10	1,165	667	204	204	871	x	x	3
対前年比 (%)	109.0	115.9	115.9	111.1	94.3	99.1	81.3	83.6	101.9	x	x	x
構成比 (%)	100.0	72.1	71.9	0.2	27.9	16.0	4.9	4.9	20.8	x	x	x

単位: 千m<sup>3</sup>

ウ 普通合板生産量

平成25年の普通合板生産量は281万1千 $m^3$ で、前年に比べて26万2千 $m^3$ （10.3%）増加した。

これを厚さ別にみると、「3mm未満」の階層については、前年に比べて3千 $m^3$ （15.0%）減少したものの、「3～6mm未満」、「6～12mm未満」及び「12mm以上」の階層については、前年に比べてそれぞれ3千 $m^3$ （3.8%）、1万8千 $m^3$ （5.6%）、24万4千 $m^3$ （11.5%）増加した。

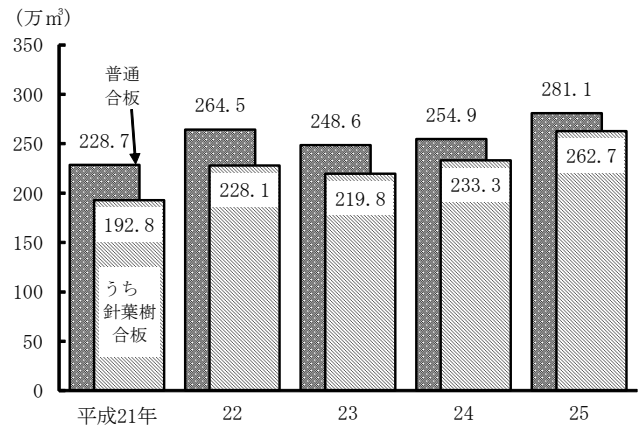
また、生産量のうち針葉樹合板生産量は262万7千 $m^3$ で、前年に比べて29万4千 $m^3$ （12.6%）増加した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は93.5%で、前年（91.5%）を2.0ポイント上回った。（表12、図9）

表12 普通合板生産量

区 分	平成25年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	%	%
普通合板生産量	2,811	110.3	100.0
3 mm 未 満	17	85.0	0.6
3 ～ 6 mm	82	103.8	2.9
6 ～ 12 mm	339	105.6	12.1
12 mm 以 上	2,373	111.5	84.4
うち針葉樹合板	2,627	112.6	93.5

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

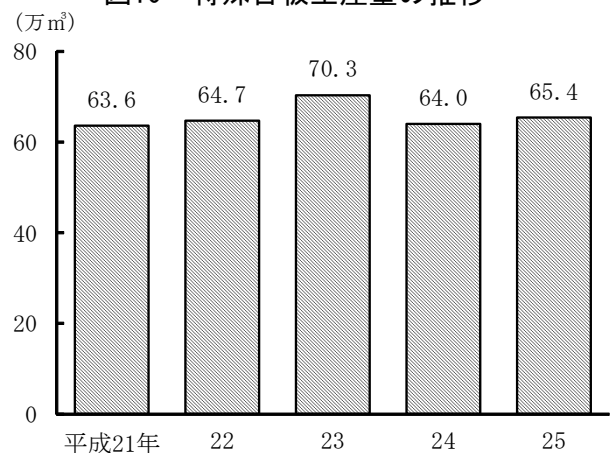
平成25年の特殊合板生産量は65万4千 $m^3$ で、前年に比べて1万4千 $m^3$ （2.2%）増加した。

これを種類別にみると、天然木化粧合板は、前年に比べて1万7千 $m^3$ （77.3%）増加したものの、オーバーレイ合板、プリント合板及び塗装合板は、前年に比べそれぞれ2千 $m^3$ （10.0%）、7千 $m^3$ （10.4%）、1千 $m^3$ （16.7%）減少した。（表13、図10）

表13 特殊合板生産量

区 分	平成25年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	%	%
特殊合板生産量	654	102.2	100.0
オーバーレイ合板	18	90.0	2.8
プリント合板	60	89.6	9.2
塗 装 合 板	5	83.3	0.8
天然木化粧合板	39	177.3	6.0
その他の合板	532	101.3	81.3
うち木質複合床板	314	88.5	48.0

図10 特殊合板生産量の推移



### (3) 木材チップ製造業

#### ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成25年12月31日現在の木材チップ工場数は1,510工場で、前年に比べて26工場（1.7%）減少した。

これを専門・兼営区別にみると、木材チップ専門工場は389工場で前年並みだったものの、製材又は合単板工場との兼営工場は1,121工場で、前年に比べて26工場（2.3%）減少した。

また、木材チップ工場の従業者数（製材又は合単板工場との兼営工場の従業者のうち、主たる業務が木材チップ業務以外のものを除く。）は2,961人で、前年に比べて81人（2.8%）増加した。

なお、1工場当たりの従業者数は2.0人で、前年に比べて0.1人（5.3%）増加した。（表14）

表14 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数  
（平成25年12月31日現在）

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
	工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人
計	1,510	98.3	1,298	152	51	9	2,961	102.8	2.0
木材チップ専門工場	389	100.0	200	132	50	7	...	...	...
製材又は合単板工場との兼営工場	1,121	97.7	1,098	20	1	2	...	...	...

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

#### イ 木材チップ用素材入荷量

平成25年の木材チップ用の素材入荷量は457万7千 $m^3$ で、前年に比べて5千 $m^3$ （0.1%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、外材の入荷量は5千 $m^3$ で、前年に比べ1万1千 $m^3$ （68.7%）減少したものの、国産材の入荷量は457万2千 $m^3$ で、前年に比べて1万6千 $m^3$ （0.4%）増加した。

（表15、図11）

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

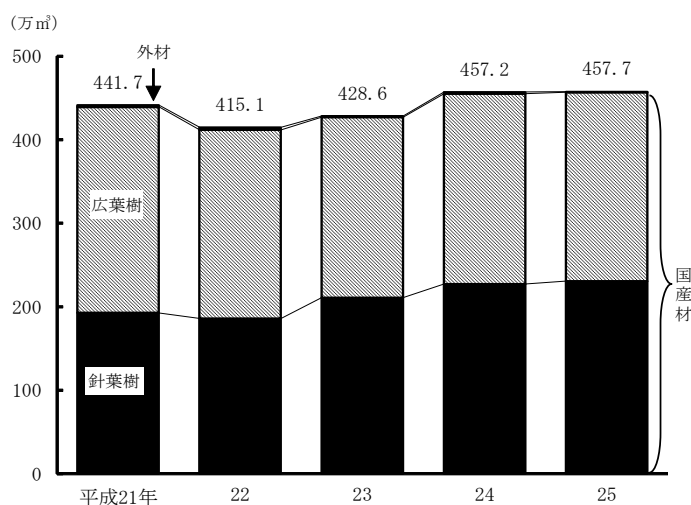


表15 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

単位：千 $m^3$

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューズーランド材	その他
平成25年	4,577	4,572	2,308	2,264	5	1	1	2	x	x	-
対前年比 (%)	100.1	100.4	101.5	99.2	31.3	16.7	16.7	22.2	x	x	x
構成比 (%)	100.0	99.9	50.4	49.5	0.1	0.0	0.0	0.0	x	x	x



ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成25年の木材チップ生産量は645万2千tで、前年に比べて59万1千t（10.1%）増加した。

これを原材料別にみると、林地残材は、前年に比べて5万1千t（26.4%）減少したものの、素材（原木）、工場残材及び解体材・廃材は、前年に比べてそれぞれ5万6千t（2.2%）、34万3千t（20.6%）、24万3千t（16.7%）増加した。

また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は320万7千t、広葉樹は155万1千tで前年に比べてそれぞれ33万t（11.5%）、1万8千t（1.2%）増加した。（表16、図12）

表16 木材チップ生産量

区 分	平成25年	対前年比	構成比
	千 t	%	%
木材チップ生産量	6,452	110.1	100.0
原材料別			
素材（原木）	2,610	102.2	40.5
工場残材	2,006	120.6	31.1
林地残材	142	73.6	2.2
解体材・廃材	1,694	116.7	26.3
針葉樹・広葉樹別			
針葉樹	3,207	111.5	-
広葉樹	1,551	101.2	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移

